

新型コロナウイルス感染症について 基礎知識の確認とアップデート

医療法人 社団永仁会 吉永医院 院長 吉永 治彦

感染症法上の扱いを5類に分類替えしたこと、マスクなどの感染防止対策が緩和されていること等により、COVID-19 患者は増加しており、現在は第9波にある。体制を変えただけでウィルスが変わったわけではなく、高齢者や基礎疾患のある人にとってはあなどれない疾患である。またリスクのない人でも、1割程度に全身倦怠感などの後遺症が持続することがあり、感染をさけるにこしたことはない。

★新型コロナウイルスの感染によって獲得される抗体には次の感染を防ぐ効果が低く（逆に重症化させる可能性があり、ワクチンほど効率的に重症化予防できない）、感染後4か月程度で次の感染をきたす可能性がある。この点で他の感染症とはおおいに異なる。また、他の病原体に対する免疫も低下させることがわかってきた。このため、感染後は、带状疱疹や細菌感染症に罹患しやすくなっている。

【感染と症状】

現在は SARS-CoV2 オミクロン株のうちXBBというタイプが流行しており、感染力はさらに強くなっている。

重症化率は、（1）ワクチン3回以上接種しており、かつ（2）一番最近はおミクロン対応の2価ワクチンを接種した人では、かなり低下している。

重症化率の低下はワクチン接種によるものであり、ウィルス自体が弱毒化したわけではないので注意（たしかにデルタ株のような肺炎は少なくなっているが現在のXBBは最初の武漢株と同程度と考えてよい）。

発熱はなくとも、咽頭痛や咳がなくとも、「のどが少しおかしい」程度でも COVID-19 であれば既に感染力あり（症状出現の2日前より感染力がある）、発症後10日程度は感染力は持続している。5類移行後に自宅療法の強制力はなくなり、5日間の自宅療養が「推奨」されているが、その後さらに5日間も感染力が残っていることに注意。

【検査】

検査の感度は検査方法によってかなり異なるので注意。

医療機関でのPCR検査 > 医療機関での抗原検査(鼻咽頭)> 自分で行う抗原検査(鼻腔)

抗原検査は発熱などの症状がでてから24時間以上たたないと陽性にならないことが多いので、早めの検査には注意が必要。早めの診断のためには可能であればやはりPCR検査に勝るものはなし。

【治療】

高齢者または基礎疾患のある人では重症化リスクがあるので、抗ウィルス薬の適応となる。重症化予防+症状軽減のためには、早めの診断+早めの治療開始が鉄則。

抗ウィルス薬の優先順位

(1) パキロビッド（ニルマトレルビル+リトナビル）：内服薬。重症化予防効果（9割以上）のエビデンスが最も確立されている。ただし、常用薬がある場合は併用できない場合があり注意。内服期間中はずっと唾液が苦くなるためつらい。第8日～12日目にリバウンド（発熱等症状の再燃とウィルス抗原が再び陽性となり感染力もある）する場合がありますので注意。

(2) ベクルリー（レムデシビル）：点滴薬。1日1回点滴×3日（症状強ければ継続）

(3) ラゲブリオ（モルヌピラビル）：内服薬。重症化予防効果は低いため、(1)(2)が使えない場合のみ検討。

☆ゾコーバ（エンシトレルビル）：内服薬。日本製で期待されるが、重症化予防効果は証明できなかったため、現時点では重症化リスクのない若年者で症状の重い人に適応。症状の持続期間を1日短くするが費用対効果を考慮する必要あり。常用薬がある場合は併用できない場合があり注意。ウィルス量の減少は確認されているので今後のデータに期待。

【感染防止対策】

飛沫感染＋空気感染がほとんどであり、接触感染は稀であることが判明している。

ポイントをおさえた継続可能な対策が必要。

感染蔓延期には、

換気の徹底（換気できない空間では空気清浄機の使用）。

換気の悪い空間ではマスク着用徹底。

手洗い励行。

以下に示す、各個人の「感染しているかもしれない」ときの行動が最重要です！

☆発熱時や、発熱がなくても咽頭違和感があったり体調が普段と異なる場合、

「感染しているかもしれない」と考え、感染させないためのマスク着用、会食をさける・食事は一人でとる、といった対応が必要。

抗原検査キット（医療用）が手元があれば症状出現してから24時間以降に実施、参考にできる。検査が陰性でも感染していないとはいえないので、引き続き感染拡大させないためのマスク着用・独食は症状がなくなるまで続ける。

☆同居者に何らかの症状がある場合

（5類に変更される前は『濃厚接触者』とされたが現在はこの扱いはない）

可能であればただちに、居室・寝室を別にして、よく換気し、飲食も別にする。

発端者は当日または翌日にPCR検査可能な医療機関を受診してPCR検査、または翌日に抗原検査可能な医療機関を受診して抗原検査。自身は、「感染しているかもしれない」と考え、感染させないためのマスク着用、会食をさける・食事は一人でとる、といった対応。症状出現すれば当日または翌日にPCR検査可能な医療機関を受診してPCR検査、または翌日に抗原検査可能な医療機関を受診して抗原検査。



〒424-0815 静岡県静岡市清水区江尻東1丁目1-38

医療法人 社団永仁会 吉永医院

Tel. 054-366-2722 Fax. 054-366-2783 HP : <http://www.yoshinaga.org/>